

平成17年9月6日大水害

# あれから10年

>18<

## 教訓は生かせるか…

ハネルデイスカッション

「災害の教訓を生かす」

自助・共助・公助」

【杉尾】では、猪狩さん、いかがですか。

【猪狩】実は防災士制度が始まったのが平成15年で、17年の台風のころは私もまだ防災士ではなくて、ちょうど試験勉強をしている最中でした。たしかこの台風の2週間後ぐらいに防災士に合格したと記憶しております。

9月5日、まだ九州の南海上に台風がいるころなんです、今は防災士になっている方を中心に約千人へファクス配信とメール配信を始めていて、それですね。



猪狩信浩氏

## 浸水した祇園町から北小路

### 越水の恐れ、周囲に伝えたが…

それで、商店街の方々に集中して、越水の危険があるんだと連絡いたしました。皆さん、のんびりされていて、まさか越水しないだろうと…。

「いや、今見てきたら（堤防下）50センチまで水が来ているんだ」「あっ、それは大変だ」ということで、信じていただいた方は荷物を上に上げたりして何とか助かったんですが、そうでない方は浸水してしまっただけです。

板田橋の方に向かって交差点から向こう



（東側）は浸水していませんけど、北小路は大体50〜70センチぐらい浸水しました。ダイエー跡地、今、富銀がある所のあたりからパーッと豊堤を越えて浸水をしていました。

何で（豊堤に）豊を入れられないのかと思うんですけど、こ

ういった状況の中、ちょうど越水のころは皆さん方に一生懸命連絡をとっていたことを覚えております。

実際、水害が発生しまして、古川・岡富地区は被害がひどかったのですが、こういった記憶を10年ぶりに思い出して、もしかしら、また今から来るかもしれないので、気を引き締めて備えていかなければ

洪水で堆積した大量の土砂やがれきの片付けに追われる災害ボランティア（平成17年9月10日、延岡市古川町）

コーディネーター  
杉尾哲（宮崎大学名誉教授）  
パネリスト  
首藤正治（延岡市長）  
岡師雄一（宮崎県土整備部長）  
大塚法晴（元延岡河川国道事務所長）  
森川幹夫（九州地方整備局河川部長）  
猪狩信浩（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長）  
福島宏一（元延岡市消防団長）  
亀長馨（元北方町川水流区長）

防災・減災を考える  
シンポジウムから――